

## 平成 29 年度 第 3 回政策討論会第二分科会要点記録

日 時 平成 29 年 9 月 21 日（木）午前 9 時 00 分～ 9 時 53 分  
場 所 第二委員会室  
出席者 烏野 隆生（座長）  
岸田 厚（副座長）  
澤田 和代  
井舎 英生  
友永 修  
西田 武史  
柔原 圭一  
池内 矢一  
欠席者 河合 馨

### 討論テーマ 『公共交通のあり方について』

地域ごとの公共交通の課題について、各委員から出された意見

- ◎現在のローズバスについては路線の変更も考えるべきである。今後は人口密度の高い地域とそうでない地域の 2 系統は必要である、また近隣市町との連携も必要と考えます。
- ◎各地域の課題については、都市部（市街地）と山間部（市街化調整区域）での違いがある。また、山間部においても、本市の街づくりの現状から考えると、開発中（泉州山手線関連、丘陵地開発等）の地域に比べ、農用地の多い地域では、課題が違ってきていると考えます。ある地域では、路線バスを利用したくてもバス停までが非常に遠く、高齢化が進むにつれ大きな問題になると考えます。また、料金の問題もあると思います。しかし、路線を増やす、便数を増やすことだけが公共交通事情における地域の課題解決にはならないと考えます。なぜなら、「公共交通として路線バスは必要である」との考えはあるものの、実際には利用しないのが現状である。それらの事を踏まえ、抜本的な改善が必要ではないかと考えます。地域主体のコミュニティバスの検討が必要ではないか…。
- ◎担当部局の認識では、全ての公共交通機関で見ると空白地域は無いと言う考え方は、タクシーでないと賄えない地域の住民に対しては不平等さを感じる。個人的には磯上町や東が丘の地域の不便さの声や地域ではないが、流木墓地への交通手段の不便さの声を聞く中、市内で開発が進み、人の流れも変わってきている現状もあるので、市民ニーズ調査を行って検討すべきである。
- ◎第二分科会の政策提言の具体化として、複数の小学校区を一つの対象とした地域バス（コミュニティバス）運営・運行の企画案を作成することを提案したい。

コミュニティバス運行を望んでいる世代は、運転免許証を持たない世代や、運転免許証を返納した世代などであり、また、身体ハンデキャップを

持つ人たちである。

山手地区住民の希望は、近隣市での買物や病院通いが可能な地域コミュニティバス運行であり、運行を岸和田市内に限定するのは住民の希望とは乖離している。

◎平成29年9月に出された岸和田交通まちづくりアクションプランに基づいて

方針①多様な世代の移動ニーズに対応しやすい公共サービスの提供

方針②駅の拠点機能向上と持続的なまちづくりを支援する環境に配慮した公共交通環境の形成

方針③市内外の交流の活発化による住みやすく、訪れて楽しい街を支援する公共交通体系の構築

方針④市民・交通事業者・行政による「つくり・支え合う持続可能な公共交通」とあるが、

私は特に方針②の施策としての交通の結節点の整備と、方針④の施策として地域住民主体による持続可能な運行を支える協働の取り組みという点にしぼって課題を出したいと思う。

1、交通結節点の整備の点からバス停留所までの移動距離があるなどの点を考慮し

交通結節点となるバス停留所にも自転車置き場を設置する。

2、地域住民が主体となる点からいうと町会や市民協議会では、財政的負担も伴うことから、かなり議論に時間がかかると予想される。一定の地域で「移動手段の確保」の目的で一致できるNPOや利用者組合をつくって、会員制で運営し、事業所、行政と連携とっていくことが一番の早道であり、持続可能となるのではないか。

また、民間の力を借りるということで具体的事例を示すと南海ウイングバスの岸和田駅と牛滝山間の路線バスダイヤは午前7時台2本、あとは9時、12時、14時、15時、16時、18時に1本であり、しかも最終便な18時になっている。これをいよやかなの郷の送迎バスを地域住民にも利用してもらおう様な手立てや、途中の白原車庫まではダイヤも充実し、最終も午後10時台まであるので白原車庫を結節拠点として、牛滝山までの間になにか仕掛けができないかなど。

(おもいつくままに)

- ・財政面では地域バスの停留所となるお店や、病院などから運営費の一部として賛助金を募るなども考える。
- ・市内完結ではなく、隣接市との共同運営の地域も考える。
- ・デマンドタクシーも念頭に置く

◎路線バスの福田線について、ほかの路線に比べ総距離数やバス停の数も少ないように思う。

朝は愛彩ランド出発で通勤や通学で使う人が利用しています。また南海岸和田駅出発からは、近畿ポリテクへ通う学生や丘陵地区に新しく進出してくれた会社に通う人でいっぱいです。

昼間は医者に行く人や買い物で使う人が利用していますが少ないように

思います。今後は、もっと市民の皆さんの利便性を思い利用者を増やすことを考えていくべきと思う。

◎公共交通の対象をどこに置くかで、考え方が大きく変わる。現状の通勤通学や余暇の移動手段としての公共交通の充実、高齢者・障害者・病人等いわゆる交通弱者と呼ばれる方の移動手段としての公共交通、今、切実なのは交通弱者の方の移動手段をどのように確保するのかが問われていると思う。

◎地域別の課題としては、市内でも中心市街地と山間部等では課題が異なり、中心市街地では交通機関の充実が図られていると感じますが、山間部などでは、公共交通機関の課題が、地域の事情により異なり、問題が多数あると思います。その中で、利用する交通機関として、路線バスや地域ローズバスの取り組みが時代に応じて、対応しなければならないと思います。公共交通機関の課題は、山間部の交通機関に絞りにくくしてはならない公共交通機関と、毎年、運行補助金を交付して、その効果を検証しながら、より利便性に伴う代替え交通機関などによる課題を抽出するべきと思います。

次回は、各市の先進事例について出し合い討論を深める。